

## 下赤塚診療所健康友の会と職員が 下赤塚駅頭で震災への募金の訴え！

小さな子どもを連れてお母さんや、若い人が立ち止まって財布から千円札を差し出すなど、2時間足らずで36,431円の募金が集まりました。

カンパ集約状況は、3月24日17時現在1,715,812円。健康文化会では、1日分の給料相当額およそ450万円を目標に募金活動を行っていて、到達度38%となっています。



## みさと健和病院 福島原発避難者を続々受け入れ

みさと健和病院の外来では、3月14日以降、連日ER新患外来で福島からの自主避難者、三郷市の姉妹都市である福島県広野町の避難者を積極的に受け入れています。以下、受け入れ状況の一部を紹介します。

**ケース1**：3/16入院。88歳女性。福島県双葉郡楢葉町より右側腹部痛で救急外来受診。福島第2原発から約20km圏内に住んでおり、震災の翌日、いわきの避難所に移動。3/15に都内の息子宅を頼って移動。移動中も体調悪く3/16みさと健和病院受診。急性胆のう炎で入院。20キロ圏内という事で放射性物質による汚染の可能性あり。入院が必要となった時点で、草加保健所に入院を受けてくれる病院を相談。保健所から紹介された3病院にER医師が連絡するが、**けんもほろろに拒否される**。院長から草加保健所に職員の汚染の可能性も含め相談し、最終的には当院で受けるようにとのことでICUに入院した。

**ケース2**：3/17入院。46歳男性。福島県田村市より。胃がんで福島の病院に入院予定であったが震災で入院できなくなったため柳原病院医師とのつながりで当院受診。入院となり抗がん剤治療開始となる。

**ケース3**：3/18入院。90歳女性。福島県双葉郡広野町より肺炎で入院。震災後、福島県内の避難所で生活していたが、心臓疾患があるのと衰弱が激しいということで、入院加療を希望。

**ケース4**：3/18入院。58歳女性。福島県いわき市内の病院に頸椎症手術予定で入院していた。平成14年より慢性腎不全で透析を行っていたが、震災により手術だけでなく透析が出来なくなり透析依頼ということで緊急ヘリを使って当院転院。入院透析を実施、当院では頸椎症の手術施行困難のため他院へ紹介となる。

**ケース5**：3/19入院。66歳男性。福島県双葉郡楢葉町より。当院職員の親族。糖尿病性腎症・高血圧で治療中であったが、震災で避難した際に薬を持ち出せなかったため内服できず、全身浮腫出現。東京の親戚を頼って来院し、浮腫は改善するも透析導入となる。来週シャント手術予定。

**ケース6**：3/19入院。78歳女性。福島県いわき市内の病院に入院中（要介護5）であったが三郷市内の娘の実家に避難。避難後、顔面紅潮・発熱・震えがあり受診。尿路感染症で入院し、治療後いわき市内の病院に戻るか療養型病院への転院かを調整中。いわき市の病院では受け入れられないとのこと。

みさと健和病院了承の下、みさと健和病院で作成した『福島原発付近から来院された患者対応（20キロ圏内）』、『福島原発事故の避難民電話対応マニュアル』を添付します。ご活用ください。